久しぶりのウェットレースで手ごたえを感じたKids com Team KCMG
難しいコンディションの中、小林可夢偉が貴重なポイントを獲得

2024 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 3 戦 レポート

開催日程	2024年6月22日（土）/6月23日（日）	開催場所：スポーツランドSUGO（3.5865km）
大会名称	2024年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦（51周または75分/参加台数：21台）	
天候/気温	6月22日（土）：晴れ/気温31度　6月23日（日）：雨/気温20度	
観客動員数	6月22日（土）：6,400人　6月23日（日）：9,300人　計：15,700人（主催者発表）	

前戦オートポリスから1ヶ月余り。第3戦の舞台は宮城県に位置するスポーツランドSUGOで、東北大会として開催された。今年は全国的に梅雨入りが遅れており、レースウィーク半ばまで仙台地方は初夏の陽気が続いていた。だが、決勝日は生憎の雨模様となり、昨年の途中から新たに投入されたレインタイヤで初めてのウェットレースに挑むこととなった。進化が止まらないKids com Team KCMGは、チームもドライバーも得意とする菅生での好成績を目指す。

第 3 戦 予選：6月22日（土）	
天候/気温/路面	晴れ / 気温：31度 / 路面温度：50度 / 路面コンディション：ドライ
#7 小林 可夢偉	Q1A組：8位 / 1’06.925
#8 福住 仁嶺	Q1B組：8位 / 1’06.630

予選日は朝から青空が広がり、真夏のようなコンディションとなった。朝のフリー走行は福住が2番手タイム（1’06.426）をマークし、好材料となる走りを見せていたため、チーム内でデータを共有して午後の予選に臨んだ。

14時00分、気温31度、路面温度50度、汗ばむようなコンディションの中、予選Q1がスタート。A組に出走した小林はユーズドタイヤでコースインし、マシンと路面のコンディションを確認すると、一度ピットに戻ってくる。残り時間4分のタイミングでニュータイヤを装着して再度コースイン。計測2周目のアタックでフリー走行より1秒以上タイムを上げたのだが8番手（1’06.925）に留まり、Q2に駒を進めることはできなかった。

5分間のインターバルを経て、14時15分にQ1B組がスタート。福住も小林と同じ流れでウォームアップを済ませ、期待高まるタイムアタックに入っていく。だが、思いのほかタイヤのグリップ感を得られず、結果は8番手（1’06.630）。フリー走行時の好調さを見せることができず、Q1敗退となった。

第 3 戦 決勝：6月23日（日）	
天候/気温/路面	雨 / 気温：20度 / 路面温度：23度 / 路面コンディション：ウェット
#7 小林 可夢偉	10位 / 26’28.899 / 1’53.969
#8 福住 仁嶺	13位 / 26’31.050 / 1’53.024

決勝日は前日から一転、天気予報通り朝から肌寒く、完全なウェットコンディションとなった。朝のフリー走行は開始から4分余りというところでクラッシュ車両が発生し、赤旗によって中断された。天候と路面コンディションの回復が望めないため、セッションはそのまま終了。半分以上のドライバーがタイムを刻めなかったため、決勝前のウォームアップ走行を8分間から20分間に変更されることとなった。

13時35分、霧の影響で当初の予定から5分遅れでウォームアップ走行が始まったが、開始から4分というところでクラッシュ車両が発生し、赤旗中断。ガードレールの修復作業と並行して審査委員会や組織委員会では今後の対応が話し合われ、14時20分からはエントラントミーティングが行われた。その結果、15時00分から10分間のレコノサンスラップが行われ、当初の1時間5分遅れでフォーメーションラップがスタートすることが決定した。

15時35分、セーフティーカーの先導によって20台のマシンが走り始めた。この時点で気温20度、路面温度23度。5周終了時にセーフティーカーは解除され、レーススタート。15番グリッドから絶妙なスタートを切った小林は#65佐藤選手と#38阪口選手を1コーナーまでにかわし、ポジションアップ。16番グリッドからスタートの福住はポジションキープで1コーナーに向かった。その直後、コース上には再びセーフティーカーが導入された。リスタート直後の最終コーナーでまたしてもクラッシュ車両が発生したためだ。

12周終了の時点でレース再開。この時点で小林は11番手、福住は14番手。2回目のリスタートもうまく決めた小林はコースアウトした#6太田選手、1コーナーまでに#50木村選手、S字コーナー出口の先で#20国本選手をかわして8番手に浮上した。福住も太田選手をかわすと13番手に。だが、13周目の最終コーナーで再びクラッシュ車両が発生したため、今度は赤旗が提示された。ドライバーは車両をホームストレート上に停車させて降車し、その後のアナウンスを待った。

16時28分、日本レースプロモーションの近藤会長より、天候や路面状況の改善が見られず、ドライバーの安全が確保されないことからレース中止のアナウンスがされた。これにより、最終結果は赤旗の1周前、12周を消化した時点でのものとなるため、水を得た魚のような驚異的な走りを見せた小林はスタートから5ポジションアップの10位入賞。福住もドライバーが命の危険を感じるほどのサバイバルレースを生き残り、13位で終了となった。

ドライバーコメント

7号車 小林可夢偉選手
フリー走行も予選も全然うまくいきませんでした。プッシュするとクルマがオーバーになるので攻めきれない状況でした。フリー走行で福住選手が2番手と調子が良かったので、同じ方向にセット変更しましたが、結局2台ともQ2には進めませんでした。
決勝は最後までレースができなかったのは非常に残念ですし、雨の中待っていてくれたファンの方にも申し訳ないと思っています。でも、安全が一番なので、レースをするコンディションではなかったと思っています。クラッシュしたドライバーたちが無事で良かったです。

8号車 福住仁嶺選手
フリー走行の走り始めから走りづらい印象があって、ニュータイヤを入れてまずまずのタイムは出たのですが、このままでは上位は望めないと思っていました。少しだけアジャストして予選に臨みましたが、コンディションの変化に対してクルマの状況が大きく変わってしまいました。小林選手と同じで、プッシュしたらオーバーになってしまうのでブレーキも踏めないし、飛び込めませんでした。
決勝は雨で、16番手からスタートなので難しいレースになると思っていました。雨量もまあまあ多く、ストレートとバックストレートはまったく見えなかったです。レースをすること自体驚きました。危険な状況下でレースが始まり、チームと運営側に危険だということを申し入れました。しかし、クラッシュが起きてからの中止となり、残念でした。こんなにもレースが無事に終わって欲しいと思ったことはなかったです。小林選手が追い上げてくれたので、そのデータを参考にして次に活かしたいと思います。

チーム監督コメント

土居隆二チーム監督
とても難しい、特別なコンディションの中、短いレースとなってしまいました。多くの観客が駆けつけてくださったのですが、良いレースを満足に見せることができず、雨の中待ってくれていたファンの皆様には申し訳なく思っております。しかしながら、ドライバーの安全が第一ということで、中止の決断は致し方ないことと思っております。今回クラッシュしたドライバーたちが無事であることを祈っております。
我々のレースに関して言えば、まずは2台とも無事に戻って来られた、これに尽きると思います。ウェットでのレースペースも良かったので、通常の雨のレースだとしたら、最後まで走っていたら結果はどうなっていたのか、見たかったという気持ちもあります。次は富士スピードウェイで合同テストとなりますが、雨でも晴れでもしっかりと良いテストができるように短いインターバルでメニューを組んで、第4戦の富士大会に備えたいと思います。引き続き、応援をよろしくお願いいたします。